

エコツーリズム

十勝三股の樹海

上士幌町は道東の十勝にある人口5600人の、大雪山国立公園が町の四分の三を占める自然が豊かな町である。ニネツ山、石狩岳などの山々がそびえ、その裾野を広大な森林が覆い、清流が流れ、たくさんの野生動物がすみ、草花が咲く。小さな流れは音更川となり、山間部から平野へと下り、平野には畑作酪農の農業地帯が広がっている。半世紀以上前には国鉄士幌線が地域を南北に走り、山中の十勝三股には往時1500人もの町があつたが、今やそこには広大な草原が広がっている。

私たち「ひがし大雪自然ガイドセンター」はこの上士幌町の北部、糠平温泉に拠点を置き、自然体験・環境教育・環境保全活動を通じて、自然と共生する暮らしやまちづくり、人づくりをめざす「NPO法人である」1997年設立、01年NPO認証。専任スタッフはわずか3人だが、地域の人々の協力を得て、さまざまな活動を展開している。

ぬかびらネイチャーウォッチング

糠平は、多くの観光客が夕方着き翌朝早く発ち、糠平周辺の自然や風景をほとんど何も見ないままに「行ったことがある」で片づけられる地であつた。何かひとつでも思い出に残ることができないかと旅館経営者らと話し合い、以前に北海道大学の学生が短期間行った早期自然観察会にヒントを得て、ネイチャーウォッチングを始めた。

主なターゲットは本州からの観光バスツアー客。出発前の早朝の時間をねらい、シカの姿やしぐさを楽しむエゾシカウォッチングを売りにした。野生動物ウォッチングは、大雪山国立公園の「素晴らしさ」を印象づける入り口として考えると、これほど効果的なものはない。

素晴らしさを語る一方、エゾシカの頻繁な出現による交通事故や害獣としての側面、ヒグマやキツ

ネ、森林保護などの問題点も示し、北海道の自然の現実を知ってもらい、自然と人との関わりはどうあるべきかをみんなで考えてほしいと話を結ぶ。お客にただ自然がきれいで雄大だとか、動物が可愛いとかだけでないものを感じて帰ってほしい。

普通の景色も道外客にとっては魅力的で、私たちは風景に自信を持って話をしている。また、現在のツアー客は地域のひととの交流を望んでいるが、普通の北海道の人と話す機会がほとんどないので、身近な生活話題も興味を持って聞いてくれる。そして、自然環境を守る気配り、自然にインパクトをできるだけ与えない気配りを行っている。携帯灰皿の配布、「ゴミのポイ捨て禁止、散策の林道利用、周辺植物保護のための長靴着用などである。また、普段から散策地の住民との「モニター」を密にし、情報の入手と散策の影響評価を話し合っている。

森の温泉街づくり

地域の売りは自然しかない。だが今まで漠然としかアピールしていなかったという自覚が地域の共通認識と原点となった。地元には空気のような自然環境が、実はとても素晴らしい、日本有数のものであることに気付いてもらえた。そうして、自然環境に目を向けるようになると、温泉街の町並みに木が少ないことに反省が起つた。開拓の斧が入つてわずか80年の温泉地だが、気付いたときにはとても無機質な町になってしまっていた。訪問者が求めているのは大雪山の自然であることに気付く。旅館経営者自らの植樹活動が始まった。糠平を森にすっぽり囲まれた温泉郷にしようという、森づくり運動、森の温泉街づくりである。

人と自然をつなぐアーチ橋ツアー

上士幌町には戦前戦後に造られた旧国鉄士幌線のコンクリートアーチ橋梁がたくさんあつた。廃線後の'96年に解体されることとなったが、住民や



ふるさとの山を守る(ニベソツ山)

ふるさとの山を守る(ニベソツ山)は、逆

に各方面で好意的に受け止められ、環境を大切に



北海道遺産に選定された旧国鉄コンクリートアーチ橋群



ぬかびら温泉総出で森作り

土木専門家らによる保存運動が起き、98年に町が当時の国鉄清算事業団から取得する形で保存、いまは北海道遺産に選定されている。

私たちは当初、コンクリートの人工物は自然を語るには不向きと思

エコツーリズムの実践

エコツアーは自然が良好な状態にあることがとても重要である。

上士幌町では、93年より町観光協会主催でニベソツ山開き登山会を毎年開催してきたが、01年、脆弱かつ厳しい自然環境の高山に、一度に百名近い多数の人間を導く山開きのスタイルは、近年の山の環境問題やリスクマネージメントの考えに反し、好ましくないという地元山岳会や当NPOの意見が反映され中止となった。

登山ブームに逆行するかと思われたこの山開き中止は、逆に各方面で好意的に受け止められ、環境を大切に

するかと思われたこの山開き中止は、逆に各方面で好意的に受け止められ、環境を大切に

らに03年度にはニベソツ山中腹にも携帯トイレが設置された。

また、当NPOが中心となり、毎年、登山道の草刈りと道標整備を行っており、03年度には1.5km間のロープ張りも行ったほか、登山道や湖、河川の釣り客のゴミ回収も頻繁に行っている。

00年度からは、将来地域を担う子供たちに環境教育を通じ、地域に誇りを持つてもらおうと町が事業主体となり、「総合的な学習の時間」の力リキラムの一環として自然環境教育を開始したが、これを当NPOが受託している。

エコツーリズム持続のために

上士幌町内の環境や自然に関する問題・課題があれば、行政の担当者や打ち合わせを重ね、私たちがどのように協力できるのか、行政はどこまでできるのかを話し合い、活動を考えていった。また、NPO法人という形態で当NPOの事業目的をはつきりさせ、活動範囲を地域にこだわ

り、地元や行政の協力を得られた大きな理由だと思

「地域に誇りと元気を！」。どうすれば？ 答えの一つがエコツーリズムである。

NPO法人ひがし大雪ガイドセンター

代表理事 河田 充



エゾシカは人気があるが



子どもたちは川が大好き！